

「宿泊FD・SDセミナー」

—首都大学東京の未来を託して—

総務部長
野澤 美博

新しいメンバーへの期待

5月31日、開学3年目を迎えた本学において、「宿泊FD・SDセミナー」が八王子セミナーハウスで初めて開催された。新規採用の教員（37名）と、平成18年度の内部登用選考で常勤契約となった法人職員（24名）が、その主たる対象であった。

平成16年4月に国立大学が法人化して以来、国公立大学間の競争は激しさを増している。この大学間競争の激化のなかで、私たち職員に課せられた任務は、他の大学より魅力ある大学とするための終わりなき環境整備である。日々起る問題を解決し、将来に向けた目標を達成するために、職員の能力開発は喫緊の課題であり、たゆまない大学改革にかかわるプロ集団としての能力が今、大学職員に求められている。

今回のセミナーの講師は、大学職員の能力開発の必要性について日頃から強く論じておられる広島大学高等教育研究センター長の山本眞一先生であった。我が国の高等教育政策や大学改革の動向等についてまとめられた2

日間の講演は、それぞれ分かり易く、職員にとっても大変有意義なものとなったと思う。

また、FD分科会とは別に行われたSD分科会では、チューターも参加し、『魅力ある大学を創り上げるために、我々職員がなすべきことは何か』をテーマに、活発なグループ討議が行われ、職員間に一体感を醸し出すことができたと思う。

セミナー初日には、学長をはじめ、各学部長、学系長が出席し、首都大学東京の未来を担う新人教職員にエールが送られた。教職員が一体となったこのようなFD・SDセミナーの試みを来年度以降もさらに積み重ね、首都大学東京を『学生が学んで元気の出る大学』としていきたいと考えている。

大学を輝かせていくことが、大学の構成員全員に課せられた使命であると考えている。とりわけ新しく首都大学東京のメンバーとなられた皆様には大いに期待している。

